

武蔵村山市 ボランティア・市民活動センター
市民力アップを目指す広報紙
No.21 (通巻124号) 2017.8.20

Collabo-ba

■コラボ・バ■

【Contents】

- ◆夏体験ボランティア
- ◆研修報告「対話によるまちづくり」
- ◆VOICE ー声ー
- ◆インフォメーション
- ◆センターからのお知らせ

Photo by 渡部 純一

4年目を迎えた

「夏体験ボランティア」

夏体験ボランティアに関わって3年、これまで毎年、オリエンテーションの複数回開催や、ネットによる申し込みと抽選発表など、その時点で最善と思われる新しい取り組みを行ってきました。その結果、中高生を中心に毎年100名以上の参加者を得るのですが、一方(1)夏休み以外の通常のボランティアにつながりにくい(2)参加者に「学校から・親から言われたから」と他律的な参加動機が見受けられ、それが連絡なしの当日不参加や、忘れ物の多発といった「本当にボランティア（自発的）にやりたいって思ったの？」という、夏ボラ自体の意義を考えざる得ないような状況がありました。

そこで私たちは、夏ボラをあくまで教育の機会としてとらえることとしました。その為、今年はこれまでこちらから一方的に伝える形だった「ボランティアのルール」を、大道芸人の劇団イカレポンチさんの協力でお芝居の形で参加者に見てもらい、何が問題だったか、どうすればよかったかを自分たちのこととして考える。というワークショップ形式にしてみました。またこれまで私たち事務局を中心に行っていた日程調整も、参加者自らが受入施設へ連絡した上で、施設独自の説明会で調整する、という形に

変更しました。

オリエンテーションの参加者は小学校高学年～大学生世代まで多岐に渡るのですが、動画という身近なメディアの力もあって、各年代ごとに活発な意見が出ました。また日程についての自分勝手な行動も、昨年よりも減ったようです。

一つ大変興味深い結果だったのは、施設の人が忙しい時間帯は、電話を避けたり、少しの時間、ボランティアが放っておかれても、自分から積極的にやれることを尋ねましよう、という意図で作った動画に、「ボランティアをないがしろにするのは良くない」という反応が多く見受けられたことです。

ボランティア先では、まず利用者が優先されるという私たちにとって当たり前のことが、彼らにとってそうではない、ということは目から鱗の思いでした。

また、今年はオリエンテーションを市内西部の三ツ木地区会館でも開催し、多くの参加をいただきました。これからも参加者の数を目指すのではなく、学生・生徒時代に、自ら積極的にボランティアとして大人や社会とかかわる貴重な体験のための機会として、その質を高めて行ければと思います。(吉富)



「対話によるまちづくり」 本気で取り組んでいるまちへ行ってきました

◆対話によるまちづくりを進める牧之原市

東京都議会議員選挙による臨時休館を利用して、7月2・3日の両日、静岡県牧之原市にスタッフ全員で視察に行ってきました。

牧之原市は駿河湾に面した静岡県中部に位置し、県内でも有数のお茶所榛原町と、田沼意次の城下町相良町が12年前に合併してできた市です。

周辺には北の島田市との間に富士山静岡空港、南の御前崎市には浜岡原子力発電所（運転停止中）があり、東日本大震災のあった平成23年には5万人を超えていた人口も、現在は4万6千人と6年間で約4000人減少しています。また高齢化率も28.7%と武蔵村山より高く、日本の地方が抱える過疎化、高齢化の影響を強く受けています。

◆キーパーソンとの出会い

牧之原市には私たちのような公設の市民活動の中間支援組織はありません。そこで静岡県立大学のCOC事業（自治体と連携し、大学が地域の課題解決に資する人材や情報の拠点となるよう文部科学省が支援している事業）が展開されており、牧之原サテライトを担当する東さんをお願いして、①県大COC事業をきっかけに相互につながった地域活動の担い手である複数の市民 ②対話によるまちづくりを進める、市民ファシリテーターと行政担当者 ③県大COCとの協働で地域活性化をしようとする高校と商店街の皆さん、という様々な立場で地域づくりを進める方のお話を聞きました。

最も強く感じたことは、皆さん「自分と違う立場の人の話を聞くことに、とても慣れている」ということでした。突然東京からやってきた、その市にはない施設の一行が、まず最初に何を知りたくてやってきているのかという素朴な疑問をぶつけてこられ、それに対して我々が何とか答えると、だったらこういうことじゃないかと、自分たちの経験を様々な角度から教えてくれました。

◆学んだこと

例えば①の方には、やる気のある市民を集めるのではなく、集まった市民のやりたいことを話し合いの中で見出すことで、当事者意識を醸成していくということ。②の方には、市民のアイデアをまちづくりの中に活かすには、提案制度よりも、地域運営組織となった自治会に予算を配分することによって、権限と責任を移譲するということ。③の方には、学校や企業・商店がなかなか協力してくれないのは頼み方が足りないから、牧之原の皆さんは、お互いが協力して新しい価値を生み出すという次の段階で努力している、ということを教わりました。

◆10年以上にわたる、市民協働の結実

しかし牧之原市でも最初からこのように上手くいっていたわけではなさそうです。合併直後、まちづくりのために、市民が集まって意見を交わす中で、やはり声の大きな一部の方だけに時間が使われ、参加者も減っていったそうです。

そこで、このままではいけないと問題意識を持った市民と行政が、西原市長のもと、市外のNPOを招いて「市民ファシリテーター」を養成しました。この市民ファシリテーターが市と協力しながら、同時に市民の立場で、様々な意見を集め「津波防災まちづくり計画」や、市内10地区に再編された地域運営組織の「地区まちづくり計画」、さらには市の基本計画となる「第2次総合計画」を作っていました。この過程の中で「自分と立場の違う人と意見を交わす」経験が積み重ねられていったと拝見しました。

さて、それでは武蔵村山ではどこから取り組めばいいのでしょうか。まずは集まってお互いの意見を話す、ということは重要ですが、やはりそこにはひとつの指針のようなものが必要です。その知見を探るために、しばらく牧之原通いが続きそうです。

（吉富）



▲グラフィックファシリテーション

募集

水泳連盟会員募集

武蔵村山市水泳連盟



入会説明会します！

日時 9月17日(日) 午後3時50分

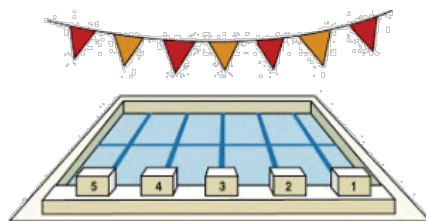
11月19日(日) 午後3時50分

※説明会以外の練習日に、15分ほど前に直接おいでくださってもかまいません。

場所 スポーツイントライ2階(武蔵村山市大南1-25)

※当日無料体験できます。(持ち物:水着・水泳帽・ゴーグル)

これから水泳をはじめたい人、初心者、きれいに泳ぎたい人、
競技に出たい人、小学生からシニアまで、6レーンを使いレーンごとに泳力に応じたプログラムで指導を行っています！



- ◆練習日時: 毎月第1・3日曜日午後4時30分～5時30分
(8月は第3日曜日のみになります)
- ◆場所: スポーツイントライ室内プール(武蔵村山市大南1-25)
- ◆会費: 年会費 正会員 ¥11,000 ジュニア ¥12,000 (4月～翌年3月分)
* 年度途中での入会は減額されます。(10月入会の場合 ¥6000)
- ◆会員: 100名
- ◆問い合わせ 村田 ☎ 090-7904-6094

新婦人まつり

新日本婦人の会武蔵村山支部



新婦人まつり



入場無料

日時: 10月15日(日)

午前11時～午後3時

会場: 大南地区会館

英会話、コーラス、小物づくり、絵手紙などのサークルの
作品展示と活動紹介



- ◆問い合わせ 新日本婦人の会武蔵村山支部 ☎ 042-565-5707 (藤巻 愛)



10/21(土)・22(日)
第12回村山デエダラまつり

もうすぐボランティア
募集開始です！

HP/市報/FBを、チェック！

11/11(土)・12(日)
第7回Food(風土)グランプリ

Food(風土)グランプリ

太極拳で綺麗になろう、心と体!!

健康太極拳・武蔵村山同好会

人と比べず競わずに、ゆっくりのんびり気持ちよく、稽古を重ね仲間づくり……。深い呼吸法は心と体の開放。リラックスでき心の安定に繋がります。

年に一度、市内で楊名時太極拳を稽古する仲間が一堂に会して合同稽古。まったく初めての方もベテランも、共に動ける太極拳!!

一緒に楽しみませんか? お待ちしております!!



▲「心をひとつにゆったりと…」



- 日時 平成 29 年 11 月 20 日 (月) 9:00 ~ 12:30
- 場所 武蔵村山市総合体育館 第2・第3体育室
- 会費 700 円 (冊子、会場費他)

◆問い合わせ 健康太極拳・武蔵村山同好会事務局 ☎ 042-569-1308 (鎌田)

団員募集

武蔵村山少年少女合唱団



年長から小・中学生までの団員を随時募集しています。
歌が好きな子はお気軽に見学・体験に来てください。

<定期練習>

とき 毎月第 1 ~ 4 土曜日 午後 1:30 ~ 4:00

場所 市民総合センター学習室、雷塚地区会館など

※練習場所は、武蔵村山少年少女合唱団のウェブページに掲載してあります。

<今までの主な出演>

武蔵村山市 平和のつどい 多摩文化交流コンサート 2015

市民文化祭ミュージックフェスティバルなど多数



ぜひ歌声をお聞きください。 <https://musasimurayama-syounennsyoudyoujimdo.com/>

◆問い合わせ 武蔵村山少年少女合唱団 事務局：乙幡 ☎ 080-6548-1210

これをまぎに

コミュニティの底力

見せつけられました!

毎年、デエダラまつりの山車に協力してくれる青森県むつ市の大湊ねぶた祭り、そしてデエダラの山車を作ってくださっている城ヶ沢地区へ行ってきました。城ヶ沢地区はむつ市の中心部から5キロほど離れた海沿いのわずか50世帯ほどの集落です。その地区が130年の歴史を持つ伝統のねぶた祭りを守るために自前でねぶた小屋をつくり、そこで作った立派なねぶたをトラックでけん引して市内へ運び、他の地区と競い合いながら巡行します。

電線を物干し竿より長い専用の器具で押し上げながら、軒先すれすれをねぶたが通ります。通り沿いの家々の人たちは皆、縁側や持ち出したイスに腰掛け、地区ごとのねぶたに声援を送ります。踊りを踊る女衆。笛を吹き、跳ねながら太鼓を乱れ打つ未成年のグループ。下に台車のついたねぶたを引っ張り、要所の見せ場では、ねぶたをぐるぐると回転させる男衆。今年の城ヶ沢地区は、そのすべての総合的な評価として最高賞のむつ市長賞を受賞していました。ねぶたづくりを通じて次の世代を育て、それぞれの役割を引き継いでいく、その層の厚さをみて、まだまだ歴史は続いていくと実感! うらやましいほどの、すごいパワーです。また、それを支える地域の人々。今年は特別に5日間続いた城ヶ沢のねぶたは、まさに圧巻でした。(吉富)



移動水族館 大にぎわいでした



8月3日、野山北公園運動場駐車場に移動水族館がやってきました。心配していたお天気も味方したかのように晴れ、平日の午後だというのに300人以上の方が訪れ、「うみくる号」は長蛇の列、主催者である障がい児の放課後等デイサービス事業者の皆さんも大忙し。車いすの方には手のひらにヒトデやうにをのせてあげる「ふれあいコーナー」も大人気。駐車場もいっぱいになり大盛況。海のない武蔵村山の夏にさわやかな風が吹いたようです。

子ども劇場の話 その一

子ども劇場との出会い

佐藤哲子

私が村山団地へ引っ越してきた三十数年前、村山は都心に出るには不便ですが、自然豊かで、団地の中にも公園が多く、車が入ってこない安心して自転車で走れる道があり、二人の小さな子どもを育てていた私には、とても良い環境だと思いました。

子どもたちが近所の幼児教室に通うようになり、その先生に誘われ、毎月七百年の会費を払い、一年に3〜4回演劇鑑賞できる「立川子ども劇場」の会員になりました。

初めて観たのは「ブークの人形劇」、八百人ほど入る大きな会場の舞台での生の人形劇は、子どもたちよりも私自身が楽しくて、次回が待ち遠しくワクワクしたことを覚えています。

後から知ったことですが、子ども劇場が最初にできたのは、九州の福岡で、家庭にテレビが普及し始め、子育てに欠かせないものとなった頃。当時、高いところから子どもが飛び降りてけがをするという事故があり、実体験の少ない子どもたちが、テレビを見続けることは、現実と虚構の区別ができないという悪影響を及ぼすのではないかという懸念から、子どもをテレビから遠ざけ、様々な経験をさせたい、ライブ感のある舞台芸術に触れさせたい。という思いのあるお母さんたちと、人形劇団をやっている青年たちが子ども劇場をつくり、全国に広がった運動と言われています。

当時の立川子ども劇場の活動は、「生の舞台を観る」「子どもの自主性を育む」「自主活動をする」という三本柱でしたが、私にとっては武蔵村山サークルの会員として活動するというより、地元で生の舞台を鑑賞することが出来るという魅力だけで充分でした。(つづく)

市民活動運営力アップ講座

ペンで地域をサポート
～市民ライター養成講座～
仲間とわいわい広報紙をつくろう！

<全 6 回講座の概要>

-  第 1 回 9 月 15 日 オリエンテーション・地域課題を知るためのワールドカフェ
-  第 2 回 9 月 29 日 広報を考える・取材のアポイントの取り方
-  第 3 回 10 月 13 日 取材の準備と写真撮影のポイントを抑える
-  第 4 回 10 月 27 日 文章の書き方の基礎とわかりやすい PREP 法
-  第 5 回 11 月 10 日 文章を書くときに大切な 3 要素・校正
-  第 6 回 11 月 24 日 広報という手法を使ってできる課題解決・グループ対話

- ▼時 間 隔週金曜日 全て午後 7 時～9 時
- ▼場 所 市民総合センター 2 階 会議室
- ▼定 員 16 人（応募者多数の場合は抽選）
- ▼講 師 井上 晶夫 氏（いのうえ あきお）
- ▼参加費 3,000 円（6 回分）

※初回にお支払いください。なお、受講途中のキャンセルや欠席による返金はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

【講師 井上 晶夫 氏】

フリーライター歴 15 年。
情報誌やビジネス誌で執筆。ワーク
ショップデザイナーやファシリテ
ーターとしても活動している。



※最終的にボランティアとして活動していただくための講座です。初心者の方は歓迎しますが「自分だけマンツーマンでイチから全部教えてほしい」という方は難しいかもしれません。そういった方はカルチャーセンターなどの受講をお勧めします。

NPO・協働 個別無料相談

NPO・協働 よろず相談

毎月第 4 土曜日 定期開催中

無料!!

※あらかじめ、電話・ファックス・メールで相談
内容の概略をお知らせください。
※年度末書類作成・助成金などの相談もどうぞ。

【9月の相談日】

30 日（土）
13:00～17:00

【10月の相談日】

28 日（土）
13:00～17:00

まなぶとできる

登録団体・人材パートナーズ
体験ワークショップ

紅茶で心も身体も健やかに

日 時：9 月 8 日（金）13:00～16:00

場 所：総合センター 2 階 調理実習室

ゲスト：藤島 孝子 氏

（紅茶専門店 KANDY オーナー・人材パートナーズ）

定 員：16 名（応募者多数の場合は抽選）

持ち物：エプロン、三角巾、ハンカチ

材料費：600 円（参加費含む）

※おかげ様で定員を超えました。ありがとうございました。

【申込み・問合せ】

ボランティア・市民活動センター（市民総合センター 2 階）

TEL: 042-590-1430 FAX: 042-590-1436

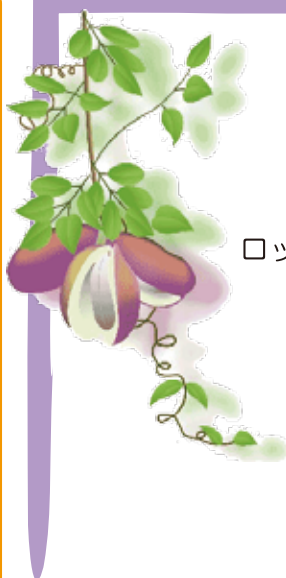
Eメール: v.shimin@musashimurayama.org ホームページ: <http://musashimurayama.org>



元気フェスタ始動！

みなさまにはまだ終わったばかりと、思われるだろう元気フェスタですが、2018年の開催に向け、月1回の定例スタッフ会議とは別に、元気フェスタ会議が始まりました。昨年からはじめた事業だけに、皆さんからのご意見や反省点を反映し、時間をかけて準備することでスタッフの少なさを補う必要を感じています。

参加団体の皆さまにも、出店や展示の意向をなるべく早く伺い、万全を期すため、次号で参加団体募集のご案内をし、来年2月頃までに確定するということになる予定ですので、皆様にもぜひ参加の可否について、検討を始めていただきたいと思います。また、過去2回のフェスタについて、すでにご意見をお寄せいただいておりますが、あらためて気づいた点やお手伝いいただけること等、センターにお伝えいただければ幸いです。皆様の協力なしにはできないフェスタ、より充実した市民活動見本市にしていこうためご協力のほどよろしくお願いします。



ロッカー配置が 変わりました！

皆さまにご協力いただき
ロッカーの配置を変えたところ
大変ご好評をいただき
汗を流したスタッフは
ほっとしています。
登録団体に限りですが
新規貸出も受付中です。
ぜひご利用ください。

● 休館日

【9月・10月の休館日】

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1 2	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

■ 休館日 月曜・祝祭日・施設点検日
■ 窓口取扱時間 8:30～17:00

今号の表紙

今回の渡部さんも、昨年のカメラマン講座を修了されたおひとりで、様々なイベントを撮影していただいています。先日平成29年度多摩都市モノレールフォトコンテストにも応募され、「次は村山市役所」と名付けた作品が、モノレール部門の優秀賞に選ばれたと報告に来てくださいました。

渡部さんの入賞作品は、8月24日休から9月1日(金)までの間、市役所1階ロビーに展示されます。ぜひご覧ください。

ほっとひと息

今年の夏は、いつだったの？梅雨は？

8月に入ってから毎日雨の降らない日はないという異常さ。なんだか地球がおかしくなっているのではと心配になってきます。

日照不足で農産物は、果物は、大丈夫なのだろうか？海産物にも影響があるのでは？と、私たちが日々、いかに自然からの恵みによって生活を営んでいるかということに思いをはせています。こればかりは、どうしようもない思いながら…。(Y.K)

武蔵村山市 ボランティア・市民活動センター広報紙『コラボ・バ』No.21 (通巻 124号)

2017年8月20日発行(発行部数 30,000部) ※年6回、偶数月発行

編集・発行 武蔵村山市 ボランティア・市民活動センター(指定管理者: NPO法人 むさしむらやま子ども劇場)

〒208-8503 東京都武蔵村山市学園4丁目5-1 武蔵村山市民総合センター2階

TEL: 042-590-1430 FAX: 042-590-1436

Eメール: v.shimin@musashimurayama.org ホームページ: <http://musashimurayama.org>

<後記> 名前は知っているけど、何をやっている団体なのかは知らない方が多い子ども劇場。1993年に立川子ども劇場から独立し、武蔵村山市で活動を始め今に至っていることを、報告書のようにまとめるのではなく、市民活動のベースである「想い」を遡ってみたいと、今号6ページに「子ども劇場の話」というコーナーを設けました。全部で6回くらいで完結するよう計画していますが、どうなりますことやら。

それぞれの団体がそれぞれの想いをもって活動が続けていることを、お伝えできるコーナーとして、皆さんにもぜひ寄稿していただけるものになれば…、などということも考えています。

